

Unit3 My Future Job

自分の職業についてビジョンを持とう

本校の育成する資質・能力

コミュニケーション力

主体性

- 1 日時 令和3年7月1日(木) 14:00~14:50
- 2 学年・学級 2年3組(男子18名 女子14名 計32名)
- 3 場所 2年3組教室(北校舎2階)
- 4 教材について

(1) 単元観

本単元は中学校学習指導要領(平成29年告示)第2章第9節外国語第2の1目標(3)話すこと[やり取り]ウ「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。」を受けて設定した単元である。

この目標での「社会的な話題」とは、社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のことであり、広く国内外で起こっている事象で、多様な考え方ができるものを取り上げる。本単元では、これまで学んできた職業学習についての話題から、AIなどのテクノロジーと仕事に関わる社会の変化の様子などを通して、自分自身の将来の職業について考えたことを取り上げる。

言語活動として現代社会におけるAI、ロボットなどとさまざまな産業の関わりも踏まえながら、自分が将来どのように働きたいか述べ合うことを設定する。体験学習やニュースなど、聞いたり読んだりした事に基づいたやりとりを継続的に行い、生徒がお互いに質問したり、個人またはグループで考えや感想、理由などを述べ合うことをねらいとする。

言語材料として、to不定詞を扱っている。to不定詞の用法や構造については、中学校3年間で段階的に復習の機会を設けている。小学校第5学年及び第6学年外国語においては、動詞がwantである時、目的語として、名詞だけではなく、名詞的扱いとなるto不定詞を含む文も指導されてきている。中学校の早い段階で、こうした小学校で学んだ表現も取り上げ、音声で十分に慣れ親しんだto不定詞を身につけさせていくことで、中学校3学年での自分の立場を明らかにして行うディベートなど、発展的な内容につなげる。

(2) 生徒観(調査結果等から見る課題)

6月に実施した標準学力調査の結果では、英語大問12「自分の出身地を紹介する英作文」問題において「テーマにそって3文以上で書かれている」正答率が57.9%と、全国平均正答率の34.5%を大きく上回っている。また、「与えられた情報に基づいて書く英作文」問題でも50.5%と高い。テーマや一定の情報を与えられた際に、自分の考えたことや理由についてしっかりとらえ、英語で作文する能力が五割程度の生徒にはあると考えることができる。目標値を下回った大問5「聞くこと」「対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる」では、22.6%の正答率に留まった。

大問番号	出題のねらい	校内正答率	目標値	全国平均正答率
5	対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。	22.6%	30.0%	14.2%
11	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。	31.1%	35.0%	29.4%
12	自分の出身地について、まとまった内容で説明する文を書き表すことができる。 (テーマにそって、3文以上で書かれていることを正答とする)	57.9%	40.0%	34.5%

このことから、まとまった英文で説明したり、与えられたテーマに沿って身のまわりの事柄を英文に

書き表す技能は高い。反面、聞いたり読んだりした事柄に対して自分の意見を持っていたとしても、述べ合う活動の中でお互いに反応しあったり、簡単な英語で適切に話したりする力が弱いと考えられる。

(3) 指導観（指導改善のポイント）

生徒観をふまえて、次の3点について留意し、工夫して指導を行う。

- ① 学習意欲を高めるために、生徒が目的や言語の使用場面を意識して取り組める言語活動を設定していく。教科書で読んだAIの進出と、これからの社会をテーマにしながら、自分の考えたことや感じたこと、将来どのように働きたいかを述べ合う。
- ② ある程度まとまりのある英文を話すという活動はあまり行ってきていないため、考えたことや感じたことなど、簡単な語句や文を用いて述べ合う活動を継続して行う。対話を続けるために、自分の考えをもつことと、話す語彙・技能が必要である。その手立てとして、様々なテーマについて話す前にキーワードをメモし、「考えや気持ちを述べる」「関連する文を加える」といった言語活動を継続していく。また、付け足した内容をその場で示しながら、共有する。
- ③ カリキュラム・マネジメントと生徒指導の3機能の観点から、総合的な学習の時間に学習している現代社会の課題についての調査学習を関連付ける。昨今のコロナウイルス感染症が、私たちの働き方や社会のあり方にも多大な影響を及ぼしたことも踏まえ、単元の終末に、「理想とする働き方」について述べ合う。

以上の3点を工夫して指導を行っていくことで、聞いたり読んだりした事柄に対してどのように感じたか、どのように考えたかの理由や原因などについてできるようにする。

単元の目標

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
不定詞の副詞的用法・形容詞的用法・It is…to doの用法が使われた英文を理解している。 現代の職業の変化について聞いたり読んだりしたことについて、自分の感想や思いなどを、不定詞の副詞的用法・形容詞的用法・It is…to doの簡単な文などを用いて述べ合う技能を身に付けている。	現代社会の変化に応じて、現代の職業の変化について聞いたり読んだりして、自分の感想や思いなどを、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。	現代社会の変化に応じて、現代の職業の変化について聞いたり読んだりして、自分の感想や思いなどを、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。

単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本校が定めた 資質・能力	コミュニケーション力		主体性
評価規準	知不定詞（名詞的・副詞的用法・形容詞的用法・〈It is … +to〉）を用いた文の形・意味・用法を理解している。	思うれしい・悲しいなどの気持ちとその原因を理解したり伝えたりするために、感情の原因について、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。	主うれしい・悲しいなどの気持ちとその原因を理解したり伝えたりするために、感情の原因について、簡単な語句や文を用いて、伝え合おうとしている。

	<p>技不定詞などの理解をもとに、職業についての説明などで、内容を理解したり、言葉に情報を加えて説明したりする技能を身につけている。</p>	<p>表職業についてよく知るために、仕事の内容などについて書かれた文章の概要を捉え、簡単な語句や文を用いて情報を加えて説明している。</p> <p>思将来の社会を想像し、自分の将来像や夢について考えるために、すべきことなどについて、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。</p>	<p>主これからの社会を想像し、自分の将来像や夢について考えるために、すべきことなどについて、簡単な語句や文を用いて、理解したり伝えたりしようとしている。</p>
--	---	---	--

指導と評価の計画

次	学習内容	評 価	
		観 点	評価規準（評価方法）
1	<p>○総合的な学習の時間とのつながり Unit 2 Let's Listen の インタビューを聞いて、要点をとらえる。</p> <p>○教師が Show and Tell を行い、終末の活動のイメージを持たせる。</p> <p>○インターネットの記事等をもとに、これからの仕事の変化について考える。 課題の設定</p> <p>○不定詞（名詞的用法）を用いた文の形・意味・用法を理解する。</p>	知	<p>不定詞（名詞的用法）を用いた文の形・意味・用法を理解している。 （後日ペーパーテスト）</p>
2 本時	<p>○ロボットや AI が人間に逆らったり、仕事を奪ったりするような事柄について考えたことや感じたことの原因について伝え合う活動を行う。</p> <p>A: What do you feel about the picture? B: I feel scary to see the picture. A: Why? B: Because the robots look strong.</p> <p>○教科書の本文を通して、不定詞（原因を表す副詞的用法）を用いた文の形・意味・用法を理解する。 整理・分析</p>	表 知	<p>うれしい・悲しいなどの気持ちとその原因を理解したり伝えたりするために、感情の原因について、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。（活動観察）</p> <p>不定詞（原因を表す副詞的用法）を用いた文の形・意味・用法を理解している。 （後日ペーパーテスト）</p>
3	<p>○不定詞（形容詞的用法）を用いた文の形・意味・用法を理解する。</p> <p>○自分の将来の夢や、そのためにしていることについて対話活動を行う。 まとめ・創造・表現 振り返り</p>	主	<p>これからの社会を想像し、自分の将来像や夢について考えるために、すべきことなどについて、簡単な語句や文を用いて、理解したり伝えたりしようとしている。（ワークシート）</p>

4	○不定詞〈It is …+to〉の文の形・意味・用法を理解する。 ○これまでの学習から to 不定詞の表現はどのような場面で活用できるかについて考える。 課題の設定	知	不定詞〈It is …+to〉の文の形・意味・用法を理解している。 (後日ペーパーテスト)
5	○自分の体験や職業についての学習を伝えるために、職業体験について、事実を整理してメモをとり、たずね合う活動を行う。		
6	○前時に聞き取った考えや、相手の考えについて事実や意見を整理し、他の生徒に対して紹介合う活動を行う。 整理・分析	思	将来の社会を想像し、自分の将来像や夢について考えるために、すべきことなどについて、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。(ワークシート)
7	○〈It is …+to〉, to 不定詞などの理解や前時までのメモをもとに、将来の仕事に大切だと思うことなどについて、すべきことなどを整理し、伝える資料を作る活動を行う。 (Google スライド)	技	不定詞などの理解をもとに、職業についての説明で、内容を理解したり、言葉に情報を加えて説明したりする技能を身につけている。(後日ペーパーテスト)
8	○〈It is …+to〉, to 不定詞などの理解やメモをもとに、将来の仕事に大切だと思うことなどについて、すべきことなどを整理し、伝える練習や工夫を行う。 (Google スライド) まとめ・創造・表現	思	将来の社会を想像し、自分の将来像や夢について考えるために、すべきことなどについて、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。(ワークシート)
9	○職業に関する学習をもとに、将来の社会の在り方、仕事のあり方などについての意見を Show and Tell する活動を行う。 振り返り I want to work in a hospital in the future. We need to think about our jobs. In 2030, we will work with robots. I think that it is good to work with robots if we can control them because they can work for a long time.	主	自分の体験や考え・社会の変化を伝えるために、職業体験について、事実や意見を整理して、たずね合ったり伝えたりしようとしている。(観察)

本時の学習

(1) 本時の目標 見たり聞いたりしたことについて、簡単な語句や分を用いて伝え合うことができる。

(2) 観点別評価規準

C	B	A
感情について伝えようとしている。 I am happy. I was sad.	うれしい・悲しいなどの気持ちとその原因を理解したり伝えたりするために、感情の原因について、不定詞の副詞的用法を用いて、伝え合おうとしている。 I am glad to see the news. I am not happy to watch the movie.	うれしい・悲しいなどの気持ちとその原因を理解したり伝えたりするために、感情の原因について、不定詞の副詞的用法などを用いて、より詳しく伝え合おうとしている。 I was surprised to know the news. Someday I want to use robots, too.

(3) 準備物 ワークシート、足跡シート、iPad 等視覚提示装置

(4) 学習の展開

	学習活動	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて	評価規準 (評価方法)
導入【発見】 8分	① Greetings ② AI やロボットに関する映画の一場面の写真を提示し、それらについて感想を言い合う。 ③ めあての提示	◇一言で感想を言う。 ・Robots are cool. ・Oh, it's dangerous. ◆to を黒板に貼り、「～するために」「～して」の意味と合わせて提示する。	
本時のめあて 人間とAIの世界に対して、目にして、想像し、感じたことを、伝え合えるようになるろう。			
展開①【思考】 12分	④ ペア活動 不定詞の副詞的用法について復習を行う。 ・I went home early to see the movie. ⑤ ペア活動 ・I am happy to know… ・I am sad to see… ・I am worry to see… 原因を表す不定詞の副詞的用法について、ペアで練習を行う。	◇ペアを組ませる際に指示を与え、いろいろなペアで活動を行う。 ◇Q&A 形式でワークシートの例文を話させる。 ◆ペアに声かけをさせ、取り組ませる。 ◆ヒントカードをワークシート裏に示して読みの補助にする。	
展開②【深化】 25分	⑥ ②で提示した場面写真を再度提示し、to を使った感想を述べ合わせる。 ・I am scared to see the picture. 【共感的人間関係】 ⑦ ドラえもんを目指したコミュニケーションロボットの動画(3分程度)を提示し、感想を述べ合わせる。【共感的人間関係】 A: What do you feel about the picture? B: I am happy to see the movie. A: Why? B: Because robots for communication are good. I want to see Doraemon.	◇自分の気持ちをキーワードとして一語、メモに書き出させ、話し合わせる。 ◆机間指導でヒントの提示を行う。 △I'm Scary→I'm scared. ◆感情を表す形容詞を示した前時のワークシートを参考にさせる。 ◇Why?-Because…の文や want to…など、既習の会話表現を示し、お互いに相手の意見が出るまで対話を続けさせる。 ◇相手の感想を一言でメモさせる。 ◇生徒を当てて板書を撮影し、モニターに示す。	表うれしい・悲しいなどの気持ちとその原因を理解したり伝えたりするために、感情の原因について、簡単な語句や文を用いて、伝え合おうとしている。 (観察)
終末【まとめ・振り返り】 5分	⑧ ワークシートに振り返りを記入させる。 ⑨ 次時の予告を行う。	◇見たり聞いたりしたことなどの原因によって生じた感情を、to を使って表現できることを押さえ、自分の意見を話す活動につなげる。	
○生徒の振り返り例 他の人の行動や見聞きしたことから「自分はこう思った」と言えるので、I was happy to know the news. のように、最近の出来事や、それともなう自分の気持ちを表現するときに使えと思った。			

一次関数

～関数関係であるとみなして予測しよう～

本校の育成する資質・能力

コミュニケーション力

主体性

- 1 日時 令和3年7月1日(木) 14:00～14:50
- 2 学年・学級 2年2組(男子17名 女子15名 計32名)
- 3 場所 2年2組教室
- 4 単元について

(1) 単元観(題材観)

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)第2章第3節数学第2〔第2学年〕2内容C「関数」を受けて設定した。

本単元では、次のような資質・能力を育成する。

- (1) 一次関数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 一次関数について理解すること。
 - (イ) 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知ること。
 - (ウ) 二元一次方程式を関数を表す式とみること。
 - イ 次のような思考力・判断力・表現力等を身に付けること。
 - (ア) 一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し、表現すること。
 - (イ) 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

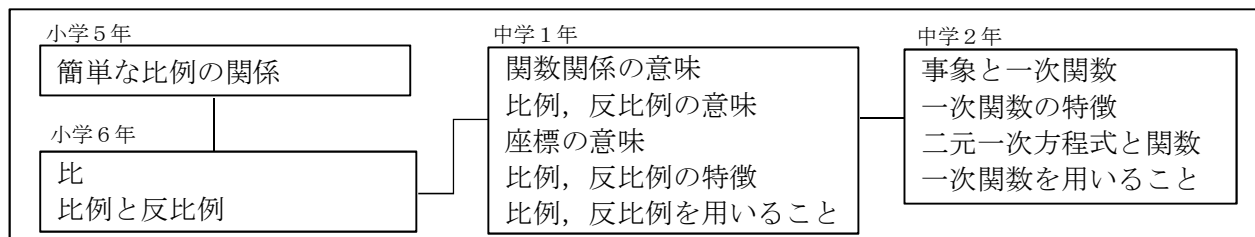
中学校数学科において、第1学年では、具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べ、関数関係について理解し、比例、反比例を関数として捉え直した。ここでは、変数と変域や座標について理解するとともに、比例、反比例の関係を表、式、グラフなどで表し、それらに関連付けながら変化や対応の特徴を考察することや、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することを学習している。

第2学年では、第1学年と同様に具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べることを通して、一次関数について考察する。これらの学習を通して、関数関係を見だし考察し表現することをねらいとする。また、一次関数の考察については、具体的な事象の中から観察や操作、実験などによって取り出した二つの数量について、事象を理想化したり単純化したりすることによって、それらの関係を一次関数とみなし、そのことを根拠として変化や対応の様子を考察したり予想したりする場面を設定する。

本単元の前に一次関数について、式や表、グラフを用いて一次関数の式で表すことや表の変化について、グラフの特徴について学習を行っている。ここでは、身の回りの具体的な事象として、東京都における新型コロナウイルス感染症の感染者数に着目し、その推移を式や表、グラフで表すことで減少傾向を一次関数とみなすことで、未知の状況を予測する。この学習を通して、具体的な事象の中から数学的な事象を見出す力を高められるようにする。

また、総合的な学習の時間では、現代的な諸課題にかかわって、身近な仕事の業種への新型コロナウイルスの影響や、校内での感染防止マニュアルの作成を行っており、本単元との関連を図っている。

関数に係る系統について



(2) 生徒観 (調査結果等から見る課題)

数学に対しては、以下に示した令和3年度標準学力調査[5月実施]の結果からもわかるように、本校では、ほとんどの領域・観点で尾道市の平均を上回っており、基本的な計算の技能や計算方法の手順の整理などはできている。

しかし、領域別に見ると、関数の領域について尾道市の通過率よりも低く、数量関係について適切に理解することを苦手としている生徒が多いことがわかる。

全体通過率

数学【領域別】	本校	全国
全体	59.9%	58.6%
数と式	64.2%	61.9%
図形	68.4%	68.2%
関数	51.8%	50.5%
資料の活用	48.1%	48.3%

領域別通過率

数学【観点別】	本校	全国
数学的な見方や考え方	50.6%	49.3%
数学的な技能	69.6%	66.0%
数量や図形などについての知識・理解	56.6%	56.9%

8

次の問いに答えなさい。

- (1) 次の表は、 y が x に反比例する関係について、 x の値とそれに対応する y の値を表しています。 y を x の式で表しなさい。答えはあとの1~4から1つ選びなさい。

x	...	-2	...	0	...	2	...
y	...	-4	...	\times	...	4	...

1 $y=2x$

2 $y=\frac{2}{x}$

3 $y=\frac{x}{8}$

4 $y=\frac{8}{x}$

	本 校	全国平均
通過率	45.3%	48.0%

出題のねらい
比例・反比例で x の値が変化するとき、 y の値がどのように変化するか理解している。

解答類型	正誤	反応率
1 正答③	○	45.3%
2 誤答①	×	14.7%
3 誤答②	×	17.9%
4 誤答④	×	22.1%
0 無解答	×	0.0%

一方、上記抜粋の比例・反比例で x の値が変化するとき、 y の値がどのように変化するかを理解しその変化を選ぶ問題では、解答が分散していることから、比例・反比例の特徴について十分に理解していないことがわかる。また、関数の問題全体を通して、関数関係を見いだし、その性質を式や表、グラフを用いて表現したり、それを用いて事象の特徴を捉えることに課題があることがわかる。

(3) 指導観（指導改善のポイント）

このような実態をふまえ、次の三点の指導の工夫を行う。

- ① 単元を通して、実生活の中で数学が活用されていることを理解させ、数学的に表現することで事象を考察したり、予測したりすることで、具体的な事象の中の関数関係に着目させ、その特徴を捉えることができるようにする。
- ② 課題設定の場面では、東京都の新型コロナウイルス感染症の感染者数に着目し、一週間の推移や曜日ごとの感染者数を抽出し、それを表や式で表すことで一次関数とみなし、未知の状況を予測させる。その中で、具体的な事象を理想化することで一次関数と考え、既習の事項を活用して考察できることを実感できるようにする。
- ③ 振り返りの場面では、伴って変わる2つの数量関係に着目して、その関係を理想化したり単純化したりすることで、これまでに学習してきた内容を活用して考えることができることを気付くことができるようにする。

以上の三点の工夫を行っていくことで、既習の関数関係と新しく学習する内容を系統的に理解するとともに、関数関係を用いて具体的な場面を数学的に考察できるようになるよう指導を行っていく。

また、生徒指導の3機能を生かした授業づくりの視点として、伴って変わる数量関係をどのようなグラフや表を用いて考察するかを考える場面では、それぞれのグラフからわかることやその特徴を理解させることで自己決定の場を設定する。

単元の目標

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 一次関数について基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	○ 関数関係に着目し、その特徴を式や表、グラフを相互に関連づけて考察し表現することができる。	○ 一次関数について、数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。

単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本校が定めた 資質・能力	コミュニケーション力		主体性
評価規準	知 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 技 2元1次方程式を関数を表す式とみることができる。 技 一次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。	思 一次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見いだすことができる。 判 表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。 表 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	主 一次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 主 一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

指導と評価の計画

次	学習内容	評 価	
		観 点	評価規準（評価方法）
1	<p>○日常の場面を一次関数として考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲み物はいつまで冷たさを保てるか考える。 ・温度を式や表，グラフで表現することで数学的に考える ・身の回りの伴って変わる数量関係の性質を数学的に処理する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 課題の設定 情報の収集 </div>	<p>知</p> <p>技</p> <p>技</p>	<p>事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。（ノート）</p> <p>2元1次方程式を関数を表す式とみることができる。（ノート・振り返り）</p> <p>一次関数の関係を表，式，グラフを用いて表現したり，処理したりすることができる。（ノート・定期テスト）</p>
2 【本時】	<p>○日常の場面を数学的に理想化して予測する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の場面を数学的に処理する。 ・数値を理想化・単純化することで未知の状況を予測する。 ・式や表，グラフで表すことで関数関係として考察する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 整理・分析 まとめ・創造・表現 </div>	<p>思</p> <p>判</p> <p>表</p>	<p>一次関数として捉えられる2つの数量について，変化や対応の特徴を見いだすことができる。（ノート・ワークシート）</p> <p>表，式，グラフを相互に関連付けて考察することができる。（グループワーク・まとめ）</p> <p>一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。（まとめ・ノート）</p>
3	<p>○一次関数のグラフを用いて，根拠を明らかにしたわかりやすい発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明らかにして，論理的な発表を行う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> まとめ・創造・表現 振り返り </div>	<p>表</p> <p>主</p>	<p>一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。（発表・振り返り）</p> <p>一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。（振り返り）</p>

本時の学習

(1) 本時の目標

具体的な事象を理想化して捉えることで，数学的に表現し考察することができる。

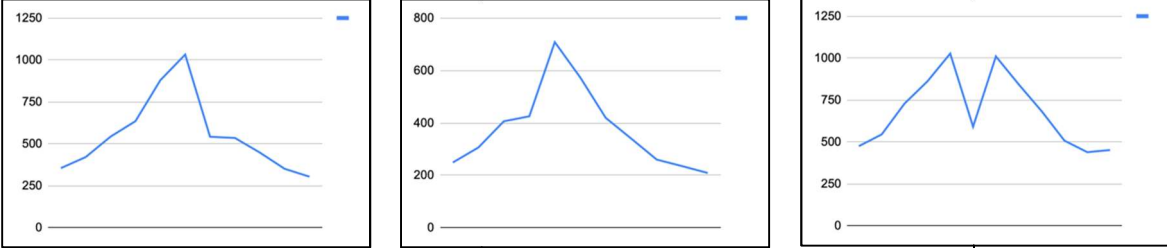
(2) 観点別評価規準

C	B	A
具体的な数値に着目し，理想化して一次関数のグラフとして表現することができる。	具体的な数値に着目し，理想化することで一次関数のグラフとみなして，値を予想しそれをもとに自分の考えをもつことができる。	具体的な数値に着目し，理想化することで一次関数のグラフとみなして，未知の状況を予想し根拠を明らかにして説明することができる。

(3) 準備物

タブレット，グラフ用紙，テレビ

(4) 学習の展開

	学習活動	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて	評価規準 (評価方法)
導入 【発見】	① 課題をつかむ。 7月23日に東京オリンピックが開幕するけど、それまでに東京での新型コロナウイルス感染症の新規感染者数って0人になるのだろうか。 ② めあての提示 本時のめあて さまざまな資料をもとに、予測不能な未来を予測しよう	◇ 動画から表やグラフを用いた説明の理想を理解する。	
展開① 【思考】	③ 資料作成のために必要な情報を考える。【自己決定】 ・ 一日の感染者数 ・ 月ごとの感染者数の推移 ・ 年代別の感染者数	◇ 情報を整理するのにグラフが何を表しているかを考えさせる。 ◇ スプレッドシートで数値を入力することでグラフが作成できるシートを活用してグラフを用いて未来を予測できるようにする。 ◆ 入力したデータをもとにデータによってどのグラフからどのような事柄がわかるかを考えさせる。	
展開② 【深化】	④ 資料をもとに、4人グループで今後の感染者数の予想をたてる。 ・ グラフを根拠として伴って変わる数量関係を一次関数とみなす。 ☆折れ線グラフによる考察  左から4月1日～6月19日の日曜日・月曜日・水曜日の新規感染者数の数値をグラフにしたもの。 水曜日以外では、感染者数は減少している。	◇ 具体的な数量関係のため、理想的な数値にはならないことを理解させる。 ◆ 数値の特徴から減少しているが、どのくらいで数値が0に近づくかを考えさせる。 ◇ グラフによってわかることが違うことを理解させる。 ◆ 感染者数の一週間の推移をまとめたヒストグラムから感染者数は週ごとに山が小さくなっているとわかることを確認する。	一次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見出すことができる。(ノート・ワークシート) 表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。(グループワーク・まとめ) 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。(まとめ・ノート)
	⑤ 発表に向けて準備を行う。 ・ グラフを用いて数値を理想化・単純化して考えたことをまとめる。		

終末 【まとめ・振り返り】	⑥ 本時のまとめを行う。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○生徒の振り返り例</p> <p>今日は、東京の感染者数を使って7月23日までに東京の新型コロナウイルスの感染者数が0人になるかを予想した。実際の数値は、必ずしも一次関数みたいに常に少なくなっているわけではないけど、できるだけ一次関数みたいに考えることで未来のことを予測することができた。</p> </div>	

参考資料 URL

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/24233> 【東京新聞 TOKYOWeb】

<https://www.watch.impress.co.jp/extra/covid19/?pref=13> 【Impress Watch】

<https://stopcovid19.metro.tokyo.lg.jp> 【東京都 新型コロナウイルス感染症対策サイト】

<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data/pref/tokyo.html> 【NHK 特設サイト】

<https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/coronavirus-japan-chart/> 【日本経済新聞】

器械運動【マット運動】

本校の育成する資質・能力

コミュニケーション力

主体性

- 1 日時 令和3年7月1日(木) 14:00～14:50
- 2 学年・学級 3年1組(男子19名 女子16名 ひまわり学級男子1名 計36名)
- 3 場所 体育館
- 4 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)第2章第2節体育分野B器械運動「マット運動」に関する単元である。

本単元では、次のような資質・能力を育成する。

(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己の適した技で演技すること。

ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説保健体育編では、この単元の学習について、「技ができる楽しさや喜びを味わい、運動観察の方法や体力の高め方などを理解するとともに、自己の適した技で演技することができるようにする。」とあり、技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにすることをねらいとする。

第3学年では、小学校や第1学年及び第2学年で既習している技(前転、開脚前転、後転、開脚後転、速報倒立回転、片足平均立ちなど)を組み合わせ、その完成度を高め、新たな技に挑戦ができるようにする。

(2) 生徒観(調査結果等から見る課題)

質問内容	肯定的	否定的
(1) あなたは、体育の授業で体を動かすことが好きですか。	66%	34%
(2) あなたは、マット運動が好きですか。	29%	71%

本学級の生徒は、教師が指示を与えると自ら練習に取り組む姿が多く見られる。

「マット運動」の事前アンケートから、自ら進んで練習する生徒が多い反面、34%の生徒が運動を苦手と感じており、授業だから仕方なく体を動かしている生徒もいることがわかった。また、(2)の質問では、「あまり好きではない」と答えた生徒が学級の全体の51%を占め、「嫌い」と答えた生徒が20%を含めると、71%が苦手意識をもっていることがわかった。苦手意識をもつ理由には、「痛いから」「怖いから」「けがをするから」「体が硬いから」が多かった。次いで、「何度も練習するけどできない」「失敗すると恥ずかしい」と答えている生徒も多かった。(2)の質問で、「好き」と答えた生徒の理由は、「技ができたらうれしい」「いろいろな技に挑戦できて楽しい」という回答が多くあった。マット運動に対して苦手意識があり、「できる」楽しさや喜びを味わえていないことに課題があることが分かった。

(3) 指導観（指導改善のポイント）

このような実態をふまえ、次の3点の指導工夫を行う。

① 運動を苦手と感じている生徒には、マット運動にも苦手意識をもっていることが分かったので、生徒同士で互いに協力して教え合ったり、補助しあったりして、自主的な練習が行われるような場面（グループ学習、レベル別学習）を設定し、同じ技に挑戦しているグループ内の生徒同士で、自己や仲間の課題を発見し、自己の考えたことを仲間とアドバイスし合う場面を設定する。

器械運動の学習に、自主的に取り組み、良い演技をたたえることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもたせたい。

② 「痛い」「怖い」という気持ちを軽減させるために、段階的に練習できる場（マットの下にロイター板を入れ斜面を作ること、スピードをつけて技をやりやすいようになど）を設定する。また、教師が図解や示

範によって技術的なポイントを説明するだけではなく、マットの置き方などを工夫し、生徒が取り組みやすいように工夫する。また、お互いに練習している技を動画で撮影することにより、見えない自分の動きを見たり、見本動画と比べたりして、練習できるように練習場を工夫しておく。

③ 振り返りの場面では、自己に適した技に挑戦し、「できる」楽しさを味わうことにつなげ、さらにそれが「できるようになりたい」と新たな技への挑戦意欲をもてるようにする。

以上の3点の工夫を行っていくことで、知識の理解を基に運動の技能を身に付けさせることはもちろんのこと、「できない」から「できる」、そして、「うまくできる」から「いつでもできる」ようになるよう指導を行っていく。

単元の目標

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① マット運動の特性を知り、技の名称や行い方を理解し、基本となる技を滑らかに行うことができる。 ② 条件を変えた技や発展技を行い、それらを組み合わせで演技することができる。	① 自分やチームの課題を見つけ、問題解決に向けて練習を工夫しておこなうことができる。 ② 自分が考えて工夫したことを、他の人に伝えることができる。	① 技への挑戦に自主的に取り組み、技が上達する楽しさを味わうことができる。 ② 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間の良い演技をたたえ、助けあったり教えあったりすることができる。

単元の評価基準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本校が定めた 資質・能力	コミュニケーション力		主体性
評価基準	[知] マット運動の特性や学び方、技術の構造を理解するとともに、練習の仕方や技の出来栄を確かめている。 [技] マット運動の特性に応じた技能を身に着け、その技能を高めることができる。	[思・判] 自分の能力に適した技を習得するための練習の仕方を工夫している。 [表] 技のポイントを見つけ、困っている仲間に指摘することができる。	[主] 自ら進んで技を練習し、自分の技だけでなく、仲間の技も観察評価している。

指導と評価の計画

次	学習内容	評 価	
		観 点	評価規準（評価方法）
1	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・マット運動の特性を理解する。 ○自分が今できる技の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・技のチェックリストに基づいて、どの技がどのくらいできているか確認する。 	知	マット運動の特性や学び方、技術の構造を理解するとともに、練習の仕方や技の出来栄の確かめ方を理解している
		技	マット運動の特性に応じた技能を身に付け、その技能を高めようとしている。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○個人発表会に向けて技の組み合わせを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・技のチェックリストを基に、「はじめの技」「なかの技」「終わりの技」を選択して組み合わせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">課題の設定</div> <ul style="list-style-type: none"> ○練習 <ul style="list-style-type: none"> ・前の技と次に続く技とが一つの技のようにまとまりをもって円滑に行われているか確認をする。 	思 判	自分の能力に適した技を習得するための練習の仕方を工夫している。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○練習 <ul style="list-style-type: none"> ・前の技と次に続く技とが一つの技のようにまとまりをもって円滑に行われているか、確認をする。 ・発展した技へ挑戦する。 ・動画撮影を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 5px;">情報の収集</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 5px;">整理・分析</div> <ul style="list-style-type: none"> ○個人発表会の技の最終案を決定する。 	思 判	自分の能力に適した技を習得するための練習の仕方を工夫している。
		表	技のポイントを見つけ、困っている仲間に指摘することができる。
4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○練習 <ul style="list-style-type: none"> ・最終案の技が、まとまりをもって円滑に行われているか練習をする。 ○プレ個人発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの発表会を行う。 ・動画撮影を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 5px;">情報の収集</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 5px;">整理・分析</div> <ul style="list-style-type: none"> ○練習 	表	技のポイントを見つけ、困っている仲間に指摘することができる
		技	マット運動の特性に応じた技能を身につけ、その技能を高めようとしている。
5	<ul style="list-style-type: none"> ○個人発表会 ○集団演技発表会について <ul style="list-style-type: none"> ・集団演技について説明する。 ・鹿児島実業高校新体操部の演技を見る。 <ul style="list-style-type: none"> ○グループ練習 	主	自ら進んで技を練習し、自分の技だけでなく、仲間の技も観察評価している。
6	<ul style="list-style-type: none"> ○集団演技発表会グループ練習 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 5px;">情報の収集</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 5px;">整理・分析</div>	表	技のポイントを見つけ、困っている仲間に指摘することができる
7	<ul style="list-style-type: none"> ○集団演技発表会グループ練習 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 5px;">情報の収集</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 5px;">整理・分析</div>	表	技のポイントを見つけ、困っている仲間に指摘することができる
8	<ul style="list-style-type: none"> ○集団演技発表会 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 5px;">振り返り</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 5px;">まとめ・創造・表現</div>	主	自ら進んで技を練習し、自分の技だけでなく、仲間の技も観察評価している。

本時の学習

(1) 本時の目標 個人発表会に向けて、技の完成度を高めることができる。

(2) 観点別評価規準

C	B	A
できる技を組み合わせて練習をしている。	できる技を組み合わせて、前の技と次に続く技とが一つの技のようにまとまるよう練習をしている。さらに、同じグループの仲間と見せ合いを行ない、アドバイスをしたり、補助をしたりしている。	できる技を組み合わせて、前の技と次に続く技とが一つの技のようにまとまるよう練習をしている。さらに、同じグループの仲間に対して個々の課題に応じて適切なアドバイスをしている。また、示範を見せている。

(3) 準備物 ワークシート、クロームブック、技の掲示資料、マット、ロイター板

(4) 学習の展開

	学習活動	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて	評価規準 (評価方法)
導入 【発見】	① 整列, あいさつ ② めあての提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> 本時のめあて 個人発表会に向けて、技の完成度を高めよう！ </div> ③ 準備運動		
展開① 【思考】	④ 復習 前時で考えた技の組み合わせを確認しながら復習をする。 ⑤ 練習 完成度を高めたい技（個人発表するものの中から）を一つ選び、練習をする。 <u>自己決定</u>	◇スムーズに技と技とがつながっているか確認する ◆補助が必要な生徒に対しては、補助しあうように伝える。 ◇生徒同士で補助しあったり、教え合ったりする活動がお多くなるようなグループ分けと練習場所の工夫をする。	技 マット運動の特性に応じた技能を身につけ、その技能を高めようとしている。
展開② 【深化】	⑨ プレ発表会（グループ別） <u>共感的人間関係</u>	◇練習した技が、他の生徒の見ていなくてもできるかどうか確認する。 ◆自分の能力に合っていない技を選択している場合は、適切なアドバイスを与え、変更を促す。	主 技のポイントを見つけ、困っている仲間に指摘することができる
終末 【まとめ・振り返り】	⑩ 片付け 本時の振り返り 整列, あいさつ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○生徒の振り返り例 ・プレ発表会では、いつもできている技が緊張してできなかった。いつでもできる技として習得するために練習を重ねたい。 ・挑戦している技が、どうやったら完成度が高くなるか、友達とアドバイスをしあいながら練習することができた。見本動画に近い形で出来たときは、とてもうれしかった。 </div>	◇発表会の予告をする。	

